

校長室通信

津谷中学校 校長 今野勝美

令和元年12月2日（月）

以前、校長室通信を発行していた校長先生がいらしたということを知っておりまして、私も不定期ながら生徒または保護者の皆様に向けて発行したいと思います。

今回は **「学び」** について です。

今月の朝会（12月2日）での「学び」についての基本的な考え方と「学びのテクニック」について話しました。「学び」は、一人一人が疑問に思ったことを探究していく過程で新たな知識や技能を習得し、それを自分の脳にある引き出しの中に蓄積していきます。できれば引き出し毎にジャンルを決めてしまっておくと使いやすいと思います。そして「学び」が高度になればなるほど、一つの引き出しにあるアイテムだけでなく、複数の引き出しから必要なアイテムを引き出し、それを組み合わせて解決に向かうようになります。



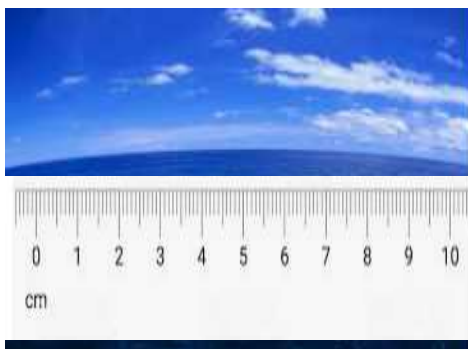
[私が中学生の時に疑問に思ったこと]

○その1……地球は丸い。本当か？

理科の教科書や図書館にある図鑑などからは分かるのですが、実際に自分の目で確かめたことがないので半信半疑でした。ところが、これまでの人生経験においてその時々で確認することができました。

① ミヤギテレビ少年の船スタッフして乗船した

フェリー「ふじ丸」の船上から太平洋のど真ん中で、360度どこを見ても海で水平線は丸い形をしていました。



② 階上中学校の3階教室から太平洋が見えます。水平線の端から端に定規を当ててみると真ん中が膨らんでいました。このことから、地球は丸いと再確認しました。このようにして、私は何歳になっても地球が丸いという証を探しては密かに自己満足してる今日この頃です。



○その2……丸い地球で暮らしている私たちは、なぜ宇宙空間に落ちないで立っていられるのか？

これについては、おそらく「重力」とか「万有引力の法則」とかというキーワードが出てくるとと思いますが、みなさんはほかの人に、分かりやすく説明することができるでしょうか？実は、私自身も小学生にも分かりやすい説明を考えているところです。

勉強方法について

千葉敬愛短期大学の明石要一教授が「中・高時代の定期考査勉強法」について、千葉県内の中学校2年生900名を対象に調査した結果、次のことが分かりました。

①Aタイプ → ノートをまとめて単語帳や年表を作ってコツコツ型で35%。

このタイプは、20年前までは最も多かったタイプでした。これは、非常に頑張っているというコツコツの日本人の良さ（稲を作る農耕民族の良さ）が今消えつつあると懸念しています。

②Bタイプ → 半分徹夜で頑張って一夜漬け型で25%。

これはたぶん、昔とあまり変わってなく、4分の1ぐらいは一夜漬けが多かったと思います。

③Cタイプ → 山を張るポイント学習型で3%

山を張る学習は大事です。山張りというのは大変であり、ハイリスク、ハイリターン。外れたらおしまいなので必死です。そうすると、山を張る人は50分の授業に集中する。なぜ先生は黒板に書くんだろうとか、なぜ黄色で囲むんだろうとか、何で繰り返すんだろうとか。また授業終わった後に、職員室へ行って質問攻めする。これを「質問力」と言い、何かが身に付く。だから質問ができないということは力がない。日本人が一番弱いのは質問力。そして、ノートを写すことからノートを取る人間に変わることが大切です。

④Dタイプ → 勉強だけが人生でない勉強しないあきらめ型で37%。

一番多かったタイプです。確かに勉強だけが人生ではありませんが、大人になって分かるのですが、やっぱり中・高校生は勉強してほしいと思います。

1年理科の授業より

この日は理科の研究授業「質量保存の法則」の検証実験で、液状にしたロウを冷やして固めた時、体積は減るが、重さは変わらないことを目で確かめるという内容でした。学びはこのように一つ一つ自分の手で行い、目で確認して行くことで知識として身に付けていくことが大切だと感じた瞬間でした。最後に、この法則を活用すれば、体を引き締めても体重は変わらないことを目指してトレーニングをすることも必要だと考えさせられた時間でした。